

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間評価）		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の基礎学力を充実・定着させ、学科併置の特色をいかし、磨き合う学習活動の工夫・改善に取り組む。 ②国際化、6次産業化を視野に入れた教育課程の充実を図る。	①生徒の基礎学力を充実・定着させるための学習活動の工夫や改善に取り組む。 ②農業科、商業科のそれぞれの強みをいかした授業展開を模索する。	①朝学習の教材や指導方法を工夫する。また、学習活動の充実・改善に向けた相互授業見学の実施、職員研修やICT利活用を推進する。 ②国際化や6次産業化を視野に入れた各科の特色をいかした授業を展開し、各科が連携した取組を行う。	①授業改善のための研修を年3回以上実施できたか。 ①生徒による授業評価で授業のあり方や学習状況について改善が見られたか。 ②施設設備を活用し、各学科の特色をいかした効果的な内容の取組ができたか。	①学習評価WGを中心とした全体研修やロイロノート研修会などの校内研修を実施した。公開研究授業により授業見学を実施することができた。 ②学科の特色をいかし、農商の連携につながる取組みとしてコラボ商品の開発を行った。	①研修等で得た知識・技術を自身の授業に取り込み、活用する手立てを工夫する。 生徒による授業評価の結果を分析する。 ②各学科の特色ある授業や教科間連携を継続して模索する。	①学校の教育活動は授業が基本であり、生徒の学ぶ意欲を高める工夫について、個々の教員だけでなく学校全体で進めることが大事である。 ②各学科の特色をいかしつつ、教科間連携を図った教育活動の展開等、平塚農商ならではの学びの構築を進めて頂きたい。	①学習評価WGを中心とした全体研修やロイロノート研修会などの校内研修を実施した。 ①公開研究授業により授業見学を実施することができた。生徒の学ぶ意欲を高める工夫を凝らした授業改善を今後も組織的に進める必要がある。 ②学科の特色をいかし、農商の連携につながる取組みとしてコラボ商品の開発を行った。教科間連携を図った教育活動の展開等、平塚農商ならではの学びの構築を進めたい。	①組織的な授業改善として、研修等で得た知識・技術を自身の授業に取り込み、活用する手立てなど年間を通して実施する。 ①生徒による授業評価の結果を分析し、活用する方法を検討する。 ②各学科の特色ある授業や特色をいかす教科間連携を継続して模索する。
2	生徒指導・支援	①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。 ②責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒主体の活動を充実させる。	①生徒が抱える不安や悩みについて、情報共有を行い早期に対応できる組織的な体制を構築する。 ②学校生活のあらゆる場面で生徒が自主的・積極的に活動できるような指導体制を構築する。 ②農商メディアセンターを生徒が安心して過ごせる居場所及び授業において調査・探究できる施設として整備していく。	①生徒の不安感を取り除くためのアンケートを実施し、一人ひとりに寄り添った指導を行う。 ①各種活動が効率的に進められるように指導体制を整備する。 ②生徒が積極的に活動できる環境整備と意識改革を図る。 ②農商メディアセンターを居心地のよい場所として整備し、様々なデータを利用者が使いやすいようにサイト集としてまとめる。	①不安を抱える生徒について、職員一人ひとりが適切な対応を行うことができたか。 ①生徒が学校生活で安心感を持てる状況を作ることができたか。 ②部活動の登録状況と実績。委員会の活動実績。 ②各種行事運営等で生徒が連携して積極的に活動することができたか。 ②利用冊数、来館者数、授業での活用数を前年度以上とすることができたか。	①かながわ子どもサポートドックのアンケートを5月、9月の2回実施することができ、生徒の困りを引き出すことに繋がることができた。 ①今までにカウンセリングを受診することのなかった生徒が受診するきっかけになった。 ②各種行事運営等で生徒が連携して積極的に活動する雰囲気that定着しつつある。 ②利用冊数1,733冊(+348)、来館者数5,767人(+567)、授業利用数107(+45)と増加している。	①アンケート結果を受けて行うプッシュ面談の実施にあたり、面接時間の不足を感じた。 ①アンケート結果に表れない生徒について、引き続き日常での観察を行ってカウンセリングに繋げる努力を行う。 ②生徒が積極的に活動できる環境整備と意識改革を図る努力を継続する。 ②サイト集を作成し、書架にサイトのQRコードを付け「情報探索カード」を掲示することにした。 量コーナーを新設し、生徒のいごちの良い場所を増やした。	①不安を抱える生徒の支援については、SCやSSW等の専門家を積極的に活用して欲しい。 ①SNSの利用等により、子ども同士のコミュニケーションの図り方が時代と共に変わってきている。学校での指導には限界があると思うが、正しいSNSの利用についての講演会を開くなどして、トラブルやいじめの未然防止に努めて欲しい。 ②生徒の居場所づくりは大切であり、農商メディアセンターがその役割を果たしているのは良いことである。今後も居心地の良い場所を増やして頂きたい。	①かながわ子どもサポートドックのアンケートを年間2回実施したことで、これまでにカウンセリングを受診したことのない生徒にもプッシュ面談の機会をつくることが出来た。そのことにより、生徒の不安や困りを聞き出すことができた。学校での指導には限界があると思うが、正しいSNSの利用についての講演会を開くなどして、トラブルやいじめの未然防止に努めて欲しい。 ②生徒の居場所づくりは大切であり、農商メディアセンターがその役割を果たしているのは良いことである。今後も居心地の良い場所を増やして頂きたい。	①年間2回のかながわ子どもサポートドックの実施について、他の学校行事に配慮した日程を検討し、担任、担当者およびカウンセラーの負担を軽減できるような日程を検討する。 ①アンケート結果に頼ることなく、結果に表れない生徒に対しては、今までと同じように日頃からの担任及び教科担当による生徒への声掛けや観察が必要だと思われる。 ②生徒が積極的に活動できる環境整備と意識改革を図る努力を継続していくことが大切と思われる。 ②農商メディアセンターが生徒の居場所としての役割を果たすとともに、効率的な情報検索や本の貸し出し、返却方法などについても整備拡張を進めていきたい。
3	進路指導・支援	①社会の動向に柔軟に対応できる産業人として、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。	①地域社会からの期待に応え、様々な産業においてしなやかに活躍する人材の育成を図る。 ②専門的な学習を	①進路支援体制の充実を図るとともに、日常的なビジネスマナー教育をより一層推進し、社会人に求められる基礎的な力を育む。	①進路相談体制や進路学習会等の充実が図られたか。 ①社会で必要とされる基本的なビジネスマナーを身に付けさせることが	①進路Gの教員が当番制によって進路指導室に常駐することで、きめ細やかな進路相談体制を整えることができた。	①②生徒の進学志向が高まる中、各種上級学校教育内容や入試の多様化等に関する教員の知識不足から、生徒の学校選びに向けた指導・助言に苦慮してい	①進路指導室の当番体制の構築は、生徒にとって窓口が明確となり、助かると思う。 ①②高校生活は大人への準備期間と考える。社会の動向に柔軟に対	①当番制による進路相談体制を充実させたことにより、3学年のみならず2学年生徒の進路室利用者数も増加した。 ①他グループや学年団、各教科との連携により、学校生活のあらゆる場面を通して、社	①当番体制の仕組みを充実させるとともに、HR担任とも連携を図りながら、1年次から意欲的に進路室を活用し、見通しを持って進路活動に取りむよう促していく。

	視 点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価（中間評価）		学校関係者評価 （3月7日実施）	総合評価（3月28日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		②キャリア教育の充実を図り、高い専門性を持つスペシャリストを育成する。	通して身に着けた知識・技術をいかながら、社会に貢献しようとする意欲と態度を身に付けたスペシャリストを育成する。	②高校での学習活動と実社会における職業生活とのつながりについて考えさせ、見通しを持ち主体的に学習に取り組むよう支援する。	できたか。 ②日常の学習や資格取得への取組み等を通じ、専門分野に関する実践的な知識・技術の定着が実現できているか。	①日常的なビジネスマナー教育に力を入れるとともに、3学年就職希望者に向けては外部講師による実践的な研修会を実施できた。 ②進路実現に向け、必要となる知識・技術の習得や資格取得に励む様子が見られた。	るとの声が上がっている。組織的な進学指導力の向上を図るため、校内研修等の実施が求められる。	応できる産業人を育成して欲しい。 ①②進路指導室の先生や担任の先生のアドバイスを聞いたり、様々な情報ツールを使ったりする等、主体的な活動により、進路実現に結び付けて欲しい。	会人として必要とされる基本的なビジネスマナー等を身につけさせることができた。 ①進学希望者が増加傾向にある中、専門学校分野選択や学校選択に向けた効果的な支援や助言ができるよう、職員研修を実施した。今後は、大学・短大等の進路指導に関する知識やスキルの底上げが課題である。 ②進路実現への目標を定め、見通しを持って学習や資格取得等に熱心に取り組む生徒がいる一方、進路実現への意欲が乏しい生徒も散見される。	①外部講師の協力も得ながら、上級学校の最新の入試制度や、時代の変化に対応した新しい学問分野等に関する教職員の知識向上を図るため、校内研修を充実させる。 ②各学科の専門的な学びを基盤とし、生徒一人ひとりが意欲を持って主体的に進路実現に取り組んでいけるよう、様々な情報ツールも活用しながら進路指導体制の見直しと拡充を進める。
4	地域等との協働	①農業科や商業科の専門教育活動について積極的に地域に広報し、PRするとともに、魅力ある学校づくりを推進する。 ②農業科、商業科それぞれの高い専門性の知識と技術をいかしつつ、社会に貢献することができる生徒を育成する。	①農業科・商業科における専門的学びの魅力を広く発信し、PRしていく。 ②地域協働や産学官連携等、様々な取組を行い、地域の特性を生かした学校づくりを推進する。	①学校PRの機会拡大と、内容充実を図り、本校の魅力を広く伝えていく。 ②地域の幼小中学校や地域団体との連携（見学・体験学習・企画参加等）を深め、地域から求められる学校を目指す。	①学校説明会の依頼実績、学校説明会・体験入学等の参加率やアンケート集計内容等の実績。 ②地域からの依頼実績や協働の機会拡大に努められたか。	①中学校からの説明会実施依頼については、生徒対象だけではなく、保護者対象にも対応し、本校の魅力を伝える機会としてしている。 ②近隣小学生の体験学習、その他教育機関との連携、地域イベントへの参加や協力を継続して実施している。	①中学校などから依頼のあった説明会においても本校生徒の実際の声を届ける手法について検討していきたい。 ②本校の持つ魅力と本校ならではのことができることを明確にし、地域に発信していく方法を検討していく。	①平塚農商高校の学校説明会や体験入学は分かりやすく、中学生が参加することで、興味や関心を持つことが多いと思う。 ②既に多くの事業を展開し、地域から好評であり、生産物の人気も高い。先生方も大変と思うが、これからも引き続き、地域への貢献と学校PRを続けて欲しい。	①専門的学びの魅力を多くの機会を利用しPRすることができた。また、その魅力を活用した広報に努め、体験入学や説明会をとおして中学生やその保護者に本校教育活動について理解してもらうことができた。 ②地域や近隣学校からの依頼も増え、協働の機会を拡大し、地域から求められる学校づくりを推進することができた。	①少子化、授業料無償化等による地域の受験生減少傾向に対し、専門高校における専門的学びの魅力に加え、就職のみならず、上級学校への進学手段としての専門高校の魅力を伝えていく。 ②地域からの依頼に対応するための人的・時間的課題が残される。本校ならではのことを明確化し、地域と学校それぞれに有益である協働について模索していく。
5	学校管理 学校運営	①信頼と期待に応える学校づくりを推進するため、事故・不祥事防止を徹底し、教職員の意識醸成や校内環境及び組織体制の整備をする。 ②安心して快適な教育環境の整備のため、生徒と向き合う時間を確保するための教員の働き方改革の実現と、組織的・計画的な学校安全管理を推進する	①定期的な不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。 ②ICTを活用した校務の効率化と勤務時間を意識した業務や会議内容を精選する。 ②災害特性を踏まえた避難訓練及び危機管理マニュアルに基づいたチェック体制を着実に実施する。	①不祥事防止研修会等を計画的に実施し、情報共有する。また、報告・連絡・相談を円滑に行い、不祥事防止に努める。 ②職員一人ひとりが勤務時間を意識するとともに、校務の効率化を図る。 ②生徒・職員対象のDIG研修や計画的な防災避難訓練を実施する。	①事故・不祥事件数ゼロを達成したか。 ②勤務時間後の退勤を促すとともに、自己研鑽や教材研究に向けた時間を確保することができたか。 ②生徒・職員対象の災害特性を踏まえたDIG研修や計画的な防災避難訓練の実施により、防災意識を高めることができたか。	①不祥事防止研修会等を計画的に進めている。 ②校務の効率化を務めているが、全体的に勤務時間の意識ができていない。 ②防災訓練は計画的に実施している。また、DIG研修は計画中である。	①年度途中での点検・確認事項の一部変更があった。改めて職員全体での共通認識の場が必要である。 ②会議等で延長してしまうことがある。事前の要点整理、終了時刻も示すなど、効率化を目指す ②想定していない災害が増えているので、改めて対応策を検討する。	①今後も事故や不祥事防止に努めて欲しい。 ②災害や火災などの事故は必ず起こると考え、対応策については、日常から意識して想定しておいて欲しい。	①不祥事防止研修会等を計画的に進め、不祥事件数ゼロを達成できた。 ②校務の効率化を務めたが、勤務時間の意識が全体的にはできなかった。また、自己研鑽や教材研究に向けた時間を確保があまりできなかった。 ②防災訓練は計画的に実施した。また、DIG研修についてもオンラインで実施した。	①大きな事故はなかったが、細かなミスは発生している。改めてミスのない慎重な対応を意識する。 ②会議等では、事前に資料を配布し、開始時刻と終了時刻通りに計画的にすすめる。また、業務の効率化をすすめるための環境整備を行う。 ②想定外の災害にも対応するとともに、生徒の防災意識を高める教育を行う。